

西伊豆健育会病院

3階病棟 師長 磯谷 里佐

功 績 1. ICT/ICCにおける精力的な活動からVRE院内感染3か月連続ゼロと終息に繋がった功績

2. 「愛情をもって親身な対応」を院内に浸透させる活動部署内レポート内容をまとめ2024年度リハケア合同研究会で発表

推 薦 者 看護部長 大村啓子

推 薦 理 由 看護管理において最も重要な周知徹底の俊敏性

上記の通り、磯谷師長は要所要所で「重要なこと」を「素早く、分かり易く」みんなが遵守できる形で伝達しており院内の感染対策や、看護上必要なことを現場の職員が困ることなく実践出来るように対応している。

看護師長として部署を束ねる姿勢が見事である。私は看護師長らに、「管理をする上では言いにくいことこそ職員にはっきり伝え、一緒に乗り越える覚悟をすること」を常に伝えているが、どうしても職員が辛くなるだろうことは言い淀みがちになる。しかし磯谷師長は伝えたことを自分なりに解釈し、体現している。その過程で職員との対話しながら前に進んでいる。看護師長の覚悟がその部署のあり方に現れる。磯谷師長の部署管理に感心し、自らも身が引き締る。

内 容

1. 当院では2022年度に院内でVREの爆発的な感染が発覚し、それに対してICT・ICCが中心となって防止策を構築してきた。2023年3月に賀茂保健所・国立感染研究所の指導を受け活動を開始し対策を継続。その結果、感染患者は確実に減少の経過をたどり、2024年4月～3か月間の発生者ゼロをもって終息した。

感染を抑えるには入院患者を預かりケアに当たる看護職員が継続可能な対策を立てそれを浸透させることが最も重要であった。磯谷師長は病院における感染防止活動の重要性を強く認識し、コアミーティングで決定した対策を素早く分かり易く院内に周知し、職員が決まりを遵守出来るよう取り組んだ。その成果は大きい。

2. 2023年度から健育会グループのメインテーマの活動を、部署で各職員にレポートを課し、共有してきた。報告を聞き胸を打つ内容も多く成果があった。是非レポート内容を分析して「職員がどんな場面で親身な対応ができたと感じているのか」まとめてほしいと提案したところ、すぐに応じてくれた。まとめたものを2024年度のリハビリテーションケア合同研究会に抄録登録し採択された。外部評価も得て、更に職員の励みになる仕事ができている。